

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 者第三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を全員が見える入り口に掲げている。新入職研修時の資料には理念を載せて学んでもらっている。今後は理念がさらに全職員に浸透するようミーティングで話し合い、実践へ繋げていきたい	事業所として地域密着型サービスの意義を踏まえ独自の理念をつくりあげ、掲示している。理念について新たに入職した職員に伝えている。	運営やケアサービスを提供するうえで理念は常に立ち戻る原点となります。理念を日々の中で話し合い実践に繋げていく取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	10月に岩岡秋祭りの神輿がホーム駐車場内を練ってくださり、入居者全員で出迎えている。日常的な交流については運営推進会議ご出席の地域の方などと交流する中でご意見を頂いているので今後検討していきたい	地域とのつながりが少なくなりつつあるが事業所として地域から受け入れられ、地域で必要とされる活動や役割を担っていけるように努めている。自治会にも加入している。10月秋祭りなど地域活動や行事に参加し良い機会としている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて見学・相談を受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様やあんしんすこやかセンター、他施設の方からアドバイスを頂きケアに役立てている。令和7年5月会議よりヒヤリハットに関するアドバイスを頂き、報告書の様式を変えて試みている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問や、意見など受け。双方向の会議となっている。ヒヤリハット報告では、要因を明らかにしどうすれば防げるかなど率直な意見をもらい、取り組み内容の改善につなげている。	面会室の有効活用の一つとして、ヒヤリハット数や事故報告を掲示し家族様に事業所の取り組みを見ていただきましょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には日頃から運営規定、介護請求、会計、加算など様々なことを質問しており、協力関係にある。市からの返答を受け、サービス内容に活かしている。	市町村担当者に現場の状況を伝え理解が得られるように質問など日頃から行っている。制度に関する質問や介護保険制度の加算に関する質問など日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束研修を行い、意見を出し合いレポートを提出し、理解を深めている。玄関の扉は日中開錠し、夜間は防犯の為施錠している	3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し委員会議事録を作成している。研修会では、スピーチロックをテーマにロールプレイなど行っている。一人ひとりが率直に話し合い事業所として取り組みや方針を検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回高齢者虐待研修を行い、意見を出し合いレポートを提出し、理解を深めている。虐待が起こらないよう、ヒヤリハット、事故報告書を見直し、虐待防止委員会の意義についても研修やミーティングで話している	「高齢者虐待防止のための指針」を作成し基本的な考え方や虐待の定義について学ぶ機会を得ている。「やむを得ない事例」など具体的な支援内容の理解を図る取り組みを確認した。定期的に勉強会やミーティングを開催し防止に努めている。	

自己	者三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師を招いての研修を行っていないため、今後外部講師研修もおこなってきたい。資料研修は行っている	入職時には職員への権利擁護に関する制度の資料等基本的に理解できるよう説明し資料を渡している。対応が必要と思われる利用者がいる場合は管理者で対応することになる。他の職員の理解など周知は図れていない。	成年後見が必要なケースも今後出てくる可能性はあります。関係機関への橋渡しなど支援できるようにしましょう。ぜひ学ぶ機会を持ちましょう。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については理解、納得していただけるよう時間をかけて説明している。不明点、不安な事はいつでも連絡を頂くようお願いしている	時間をとって丁寧に説明をしている。特に利用料金や契約内容など家族様の疑問にこたえるようにしている。また「重度化した場合の対応に係る指針」についての同意書」「看取りに関する指針」を基に医療体制の実際について説明し、同意を得るようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご意見、ご要望は日々の生活時や、ケアプラン更新時にお聞きしている。ご家族にはカンファレンスや面会時、お電話にてご意見をお聞きし、ケアに反映させている	日々のケアの中で、利用者様からの意見や、要望を引き出す場面をつくるとともに、運営推進会議を活用し参加メンバーや地域の方に率直な意見等を聴きケアに活かしている。ご家族には面会に訪れた時に要望などをお聞きし、要望等はミーティングで話し合いケアに反映します。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々ケアの中でも意見を聞くようにしている。また月1回のミーティングで集中して意見交換している	変化する利用者の日々の状況など個別の要望や支援について日頃から聞き出すように努めている。また月1回全体ミーティングを開催し職員の意見、要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員の勤務状況を把握しており、特に管理者とは意見交換を密にして、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のため、年間研修計画をたてている。外部研修としては認知症介護実践研修に介護経験を積んだ職員から順に研修に参加させている。また、新人教育にも力を入れて研修指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とはお互いの運営推進会議出席時に意見交換しサービスの質の向上に活かしている		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に面談し、ご家族にも要望をお聞きしている。事前に歩行状態や食事形態、投薬の状態などを確認してご本人が安心して過ごせるよう支援している	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご本人の生活状態やご家族が抱えている問題などをお聞きし、適切な介護支援についてお話し、少しでも不安を取り除きご家族との関係を深めていっている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のサービスを見極めホーム内でできるサービスを考えて行っている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念にもあるように、人生の先輩としての敬意を忘れず、学ばせて頂いているという気持ちで共に過ごしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの方の家族関係を把握し、ご本人にも家族様のお話をさせて頂いている。また、ご家族には離れていても様子が分かるよう、電話やお手紙で状態をお伝えし、ご家族と情報を共有している	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係維持については、ご家族様を通して、外出や面会を行って頂いている。今後屋外にベンチを置くなどして気軽に交流を図れるようにしたいと考えている。	本人がこれまで培ってきた関係を断ち切らないよう、できるだけ地域住民とのつながりが継続できるように取り組んでいる。秋祭りでは、御神輿が事業所の敷地内を練ってくださいます。また家族様と一緒に外出されることもあります。感染対策の一環から面会室を増築し有効に活用されています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士にはお互いの潤滑油になるような言葉かけをし、孤立しがちな方には職員が個別に話をし、人により偏った介護にならないよう気を配っている	

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	さまざまな理由によりご逝去以外の退去になることがある。ご家族からの相談があった場合はお話を親身にお聞きしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々職員が集まって1日の生活の様子の振り返りをして個々の希望の確認をしている。希望を伝える事が難しい方には、具体的な希望を絞りやすいように質問の仕方を工夫したり職員から選択肢を提案したりして選びやすいようにしている。これまでの暮らし方に添うようにしている。	施設長及び介護支援専門員が主体となり 入所時に情報収集を行っている。その後、各介護職員から適宜情報やご様子を取入れ、状態把握に努め、利用者様自身の尊厳が、護られるように支援を行っている	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様やご家族様から、生活の仕方や希望、思い出や人生の節目について伺っている。入居後もその都度伺うように努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの希望や個人の出来る事、生活リズムを伺いながら穏やかに過ごせるように努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員が個別ケアに対して情報を集めたり、ミニカンファレンスを開き日々のケアについて話し合いや計画の見直しをしている。ご家族様にはケアの実施状況を面会時や手紙などで報告をし、意向を伺いながら計画作成をしている。	2ユニットにおける情報の共有が行われている。まずはフローシート、次に全体のミーティングが開催され課題や問題について互いに情報を共有し計画作成に活かしモニタリングを実施している。	記録が複数に渡り多くの書類の確認が必要な状態でした。今後はそれらの表題から確認が速やかにできるようにされると、介護職員への伝達も行われ評価等に繋がると考えます。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや研修などで、記録のあり方については議論が活発になっている。職員皆で書き込み皆で共有できるような記録の仕方を検討している。また担当者が、各利用者様について情報収集シートにまとめている為、介護計画の見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能的な活動には至っていないので、今後運営推進会議に図ったり、他事業所の例など知見を広げて検討していきたい		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	岩岡地区の祭事への参加や、地元米屋との取引など行っている。2か月に1度、訪問理容師にも着て頂いている。イベント時はボランティア様にも入ってもらって楽しめる形の季節イベントを計画している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科的なことに関しては週1回訪問のドクターに医療全般について相談し、指示を受けている。それに加え専門分野の受診が必要な方は定期的にご家族様付き添いにて医療機関を受診して頂いている	入所時及び状態の変化が生じた際に、受診先は利用者様・家族様が選択できるように配慮を行っておられます。またそれらが決めにくい場合は、適切な医療が受けられるように協力医等へ連絡し、照会等を受けることもできる	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護師の来所時に入居者の状態等について相談している。看護師の指示により、処置や受診などに繋げている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に情報提供書を作成している。定期的な電話連絡で、症状の確認を行い、退院に向けた情報交換に努めている	入院・退院時は各医療機関からの情報を速やかに確認し、対応できるように書面の準備がなされている。救急搬送時の申し送りについても同様である。退院時は、速やかに戻ることができるように利用者様・家族様の意向を十分に踏まえている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「看取りに関する指針」「重度化した場合の対応に関する指針」について説明し、同意書を頂いている。終末期には看取り計画書を作成し、ご家族の意向を踏まえながら介護士、主治医、訪問看護師と連携を図り、チームケアに取り組んでいる	看取りに関する指針・重度化をした場合の対応に関する指針を整備し、説明後に同意を得ている。主治医・看護師等と計画作成者及び介護支援専門員・施設長等の連携はとれている。	緊急時・重度化における時期や看取り期などに対する研修・情報の共有も行われていますが、口頭だけではなく、記録に残した上で、その状態や状況把握のモニタリングを行って行きます。
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを分かりやすいものに改定している。職員の不安点を聞き取りしたり、電話連絡訓練を行う。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実施している。昨年末に一軒置いた隣で夜間火災が発生する事案があった。その際は全員が1階に避難したが、人員確保も含め訓練の重要性を再認識した。BCP訓練については机上訓練は行ったが今後非常階段を使った避難訓練を検討している。また、緊急時に備蓄品が取り出しやすいように管理の見直しも行いたい	防災・避難訓練等の実施は書面より実践確認ができました。備蓄についても保存場所等を確認しました。デイルームにある和室テイストの箇所に置かれていました。事業継続計画(BCP)マニュアルの作成内容をファイルから確認しました。研修は実施されていますが、マニュアルの全体周知が緩やかです。	BCPマニュアルは、全ての記載ができて、一度で完成ではありません。毎日少しずつ何が記載されているか、職員全員での読み上げと追加を期待します。同時に利用者様・家族様への伝達を行い、多くの方に内容の理解と協力を得て行きましょう。

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロック研修などを通して本人の尊厳を守るという倫理の視点で言葉がけを行うようにしている。職員同士言われて嬉しい言葉がけを入居者様にもするようにしている	些細な言葉かけに対して、職員間で互いに、問題発言等があった際に、その場で伝え合うことができるように研修等を介し、周知を図っておられます。研修記録・施設長より口頭での説明を確認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の行動、発言には意味があると理解し、希望がうまく言えない方に対してもできるだけ、意思を尊重できるように考えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに沿った支援ができるよう業務スケジュールを改善、見直しをしている。ソファでくつろいだり、居室でTVを見て寛いだり、玄関先やベランダの花や野菜のプランターの手入れをされたりなどして過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪を櫛で整える支援をしたり、着るものの相談を受けている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、下膳等を職員と一緒にやっている。介助が必要な方も皆で一緒に共有スペースで食事を行っているが、食事席の場所を工夫して楽しい時間となるように配慮している。行事の時はちらし寿司など手作り食を皆で作る事もある。	地域密着型認知症対応型共同生活介護という施設の専門性を活かし、利用者様の身体機能や精神面の変化を捉え、自立を促す工夫を実施、食事の準備・実食・お片付けなどを通して工夫をされている写真等も拝見をしました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態、食事量を考え提供している。食事量、水分量を毎日記録し職員間で共有し一日を通して摂取量が確保できるよう努めている。水分が進まない時はその方の嗜好に合わせて種類を変えて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、介助を行っている。定期的な訪問歯科による検診、治療、口腔ケアを行ってもらっている。		

自己	者三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、主治医や看護師に情報提供して共有を図っている。また、紙パンツ利用の方がいるが、布パンツ利用の状態へ変化した方もいる。	入所時から、排泄が確立されているかの自立を支援する取り組みが継続的に行われています。同時に入院等でおむつを余儀なくされた方の排泄パターンを確認し、おむつを外すことができた事例についても介護記録等から確認ができました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には水分をこまめに促したり、便座に座った時の姿勢も見直している。また便秘予防のため主治医、看護師と連携し、薬の調整などを個々に行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、日時や時間などを変えて、状況に応じて入浴支援をしている。希望される方がいれば、入浴剤の使用も出来る様にしている。	1人ひとりの想いやその時の気分等をできるだけ把握し、対応を心がけておられる。そのためには日々の介護記録が丁寧に記載されている状態で申し送りが行われている。介護職が専門職として情報を共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間はそれぞれ異なるため、できるだけ個別対応を心掛けている。愛着のある毛布を持参して頂いている方もおられる。休息の必要な方などは午睡をして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情シートはファイリングして随時確認できるようにしている。服薬チェック表により、ダブルチェックでの投薬を徹底し、誤薬や飲み忘れがないよう確認している。症状の変化がみられる場合は連携医療機関や訪問看護ステーションに連絡し、指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いができる方は積極的に洗濯物を干しに行ったり、お盆拭きなどをされている。また、毎日を体操したり、建物周囲を散歩したり、プランターの花や野菜の水やりを実施している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に建物周囲を散歩したり、洗濯干しのため戸外へ出ている。近くの公園へ花見外出などを行っている。普段行けない場所についてはご家族様支援の下、外出や外食を行っている。	季節の花を愛でたり、施設近隣の散歩や敷地内での日光浴など、食事・排泄・移動等の状況を勘案し、体調良好との判断と利用者様の意向の一致で日々実践されている。気分のリフレッシュ等が重要な支援の視点から、その後どのような状態変化が見られたかなどの記録が確認できなかった。	家族アンケートより「ほとんど出かけていない・わからない」等の意見が多かったように思います。実際には日々戸外へ出ている所から、差異を埋めるためにその情報を家族様と共有頂くことが今後の課題になるかと思います。

自己	者三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人によるお金の所持管理は負担であり、盗難紛失を防ぐため、ご本人がお金の所持、管理をする支援は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	殆どの方が自ら電話や手紙でのやり取りは困難なため、職員が家族や知人との間を取り持ち手紙を送ったり、電話を取り次いだりしている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節に合わせて壁画や作品を展示し、季節感を出している。フロアには談話スペースがあり、ソファを設置しリラックスできる空間づくりに努めている。手すりを設置し、安全かつ自立して生活できるようにしている。玄関や2階ベランダにプランターを設置して花を愛でる機会がある	施設周辺・ベランダ・施設内でも十分な採光の取入れができ、日光浴など健康に活かすことができる状況となっています。談話したり、少しリラックスできる空間も整備されていました。利用者様と作成された飾り物や季節感があふれる装飾で心が和む印象を受けました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアは広く、ダイニングテーブルでは気の合った利用者がおしゃべりやゲームを楽しむことができ、またソファスペースでは寛いだりテレビを見たりできる		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真など、好みの物を持ち込んで頂き、居心地の良い空間にして頂いている。	利用者様の居室は、生活動線上に危険物がなく、フラットな状態で開放的かつ明るい個室でした。ご自身の大切なものや使い慣れたもの等を持参できることで安心に繋がります。素敵な家族写真やぬいぐるみなども置かれていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手伝いができる方には積極的にお手伝い(洗濯物干しや、お盆拭きなど)をして頂き、できるだけ身体を動かして自立した生活を送れるようにしている		